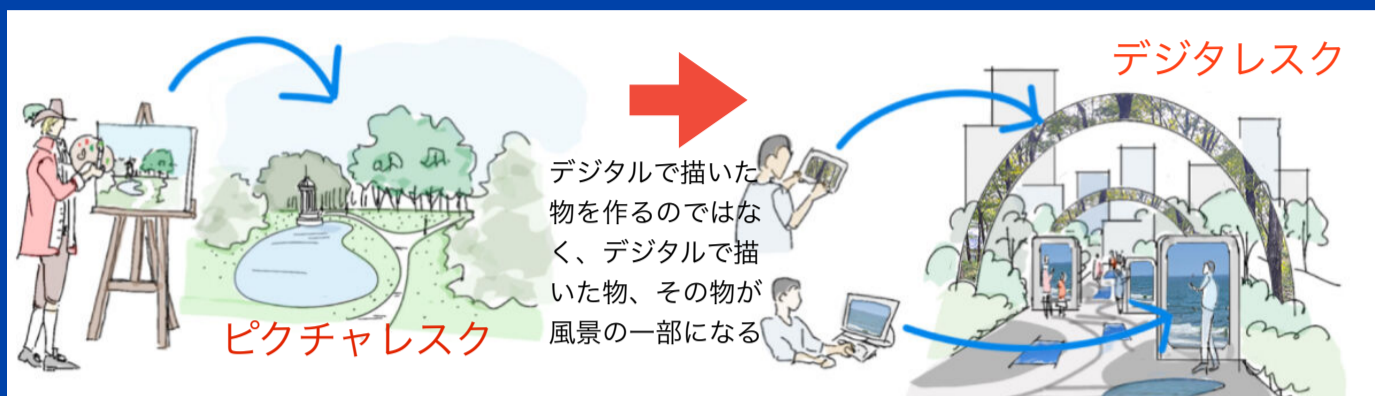


# デジタルスク？な風景を造る

## Digitalesque (digital +esque) Landscape

神戸は港町として進取の気性に富む街です。今回のデザインでも、新しいコンセプトが必要と考え、最新技術による新たなランドスケープデザインを提案します。

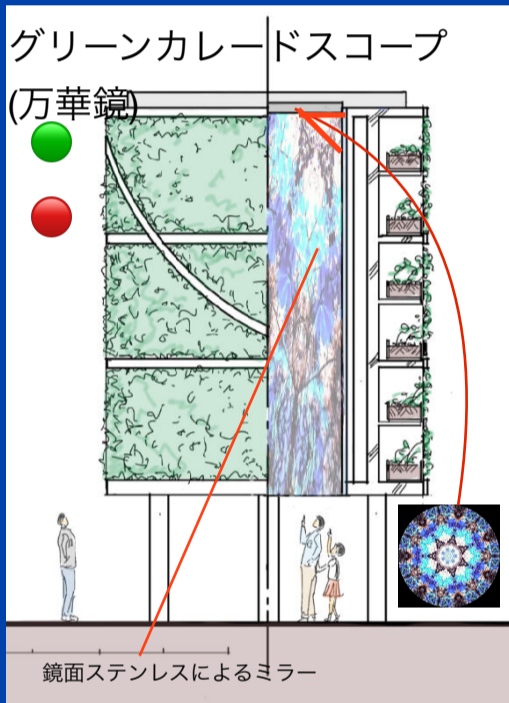
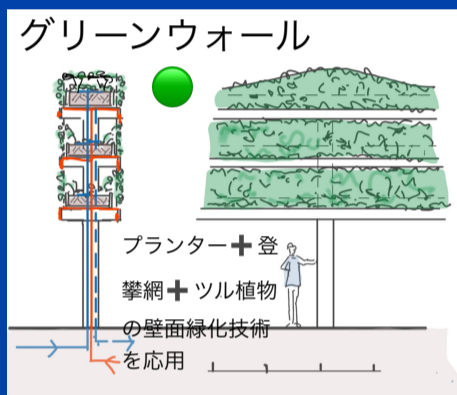
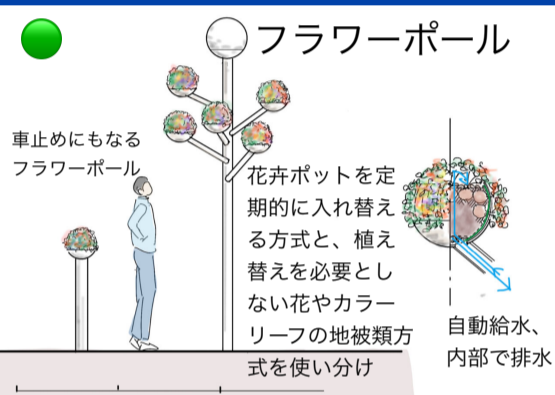
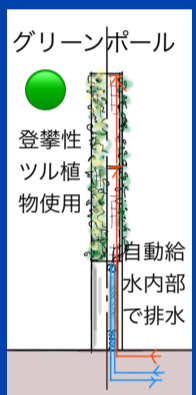
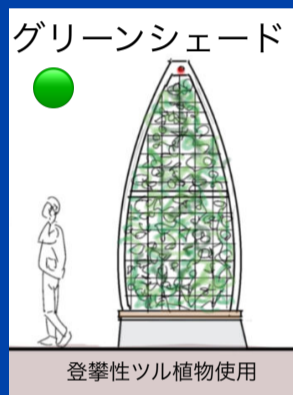
ここでは現代の象徴と言えるデジタル技術や、新しい緑や水のデバイス(装置)によって神戸の既存の景観をアクティベートし、新たな都市風景の創出を試みます。



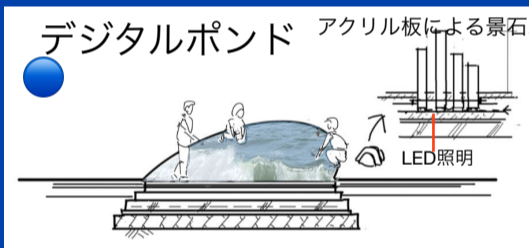
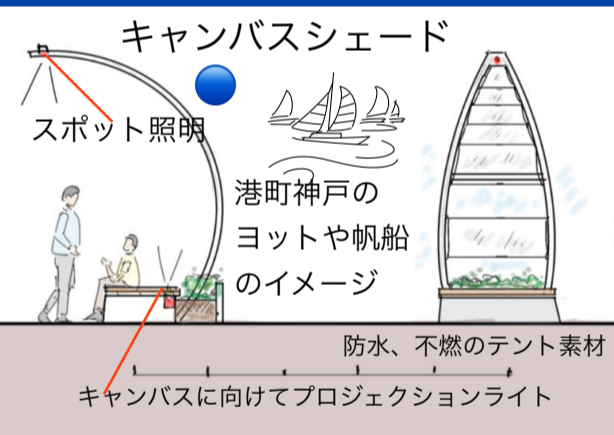
18世紀の英国では、造園家ウィリアム・ケントを中心に、picturesqueピクチャレスク、picture「絵に描いた」と-esque「～の様な」を合体させてpicturesque「絵に描いた様な、絵に描いた様に美しい」という言葉で、多くの英国風景式庭園が生み出されました。

デジタル技術が造り出す新たな都市の風景を、digital+esqueの造語、**デジタルレスク digitalesque**な風景と名付けます。

新たな風景を造るデバイスは、大きく●グリーン、●ウォーター、●デジタルの3タイプに分けられます。



進歩しつつある自動給水システムの壁面緑化技術を活用したグリーンデバイス

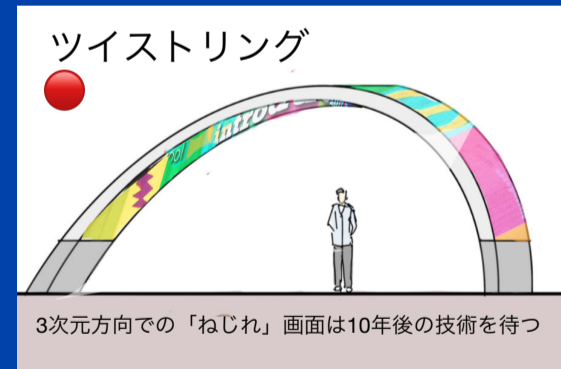
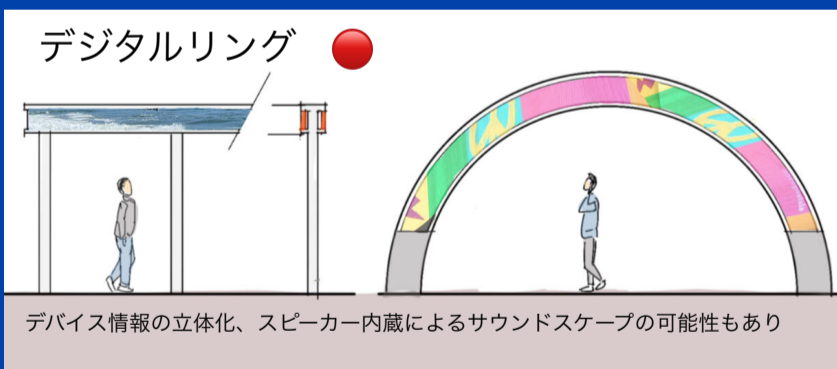
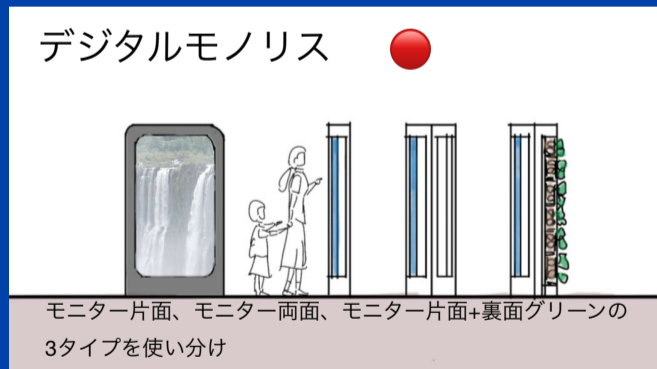


滑止め付き強化ガラスの下にLEDビジョン。海や空の動画、そして白砂の枯山水にも変身する池。

グリーンウォールに囲まれた内部は空洞で側面のミラーと天井のデジタルデータ文様で巨大な万華鏡に。

管理の容易な水景施設

舗装も海をイメージした波形に



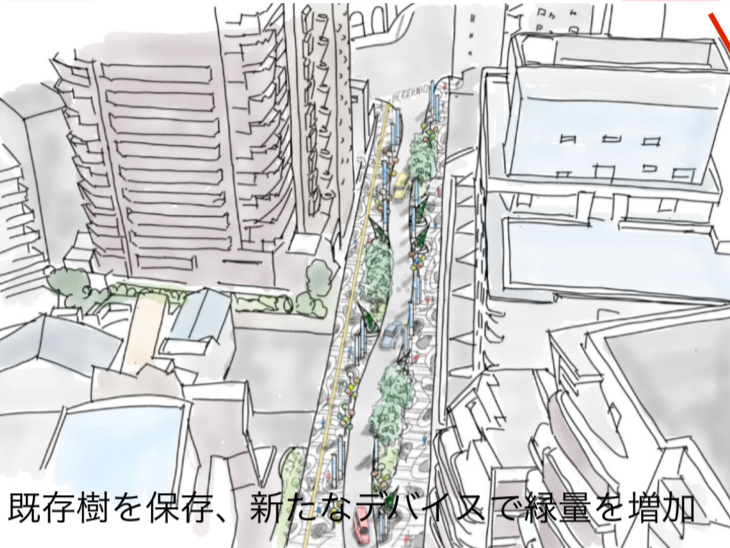
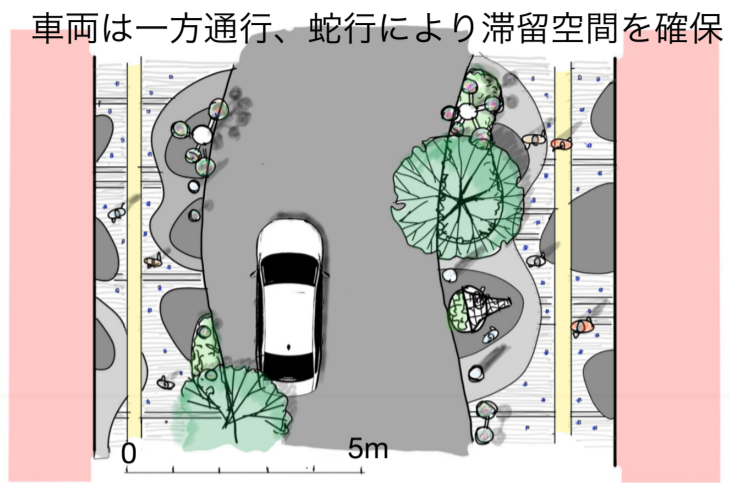
デジタルデバイスはデジタル情報を含めた、デバイス自体が都市景観に馴染んで**デジタルレスク**な風景を造ります。



新たな都市景観を形成するデバイスはミュージアムロードに限らず、街に広がっていく事を想定しています。

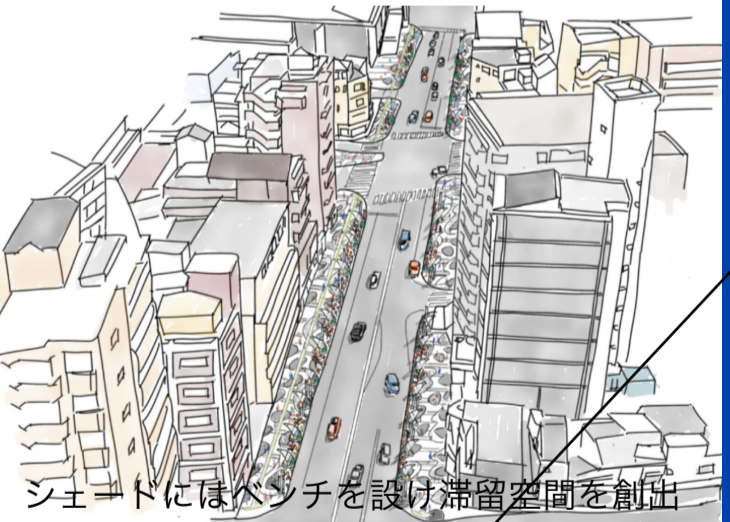
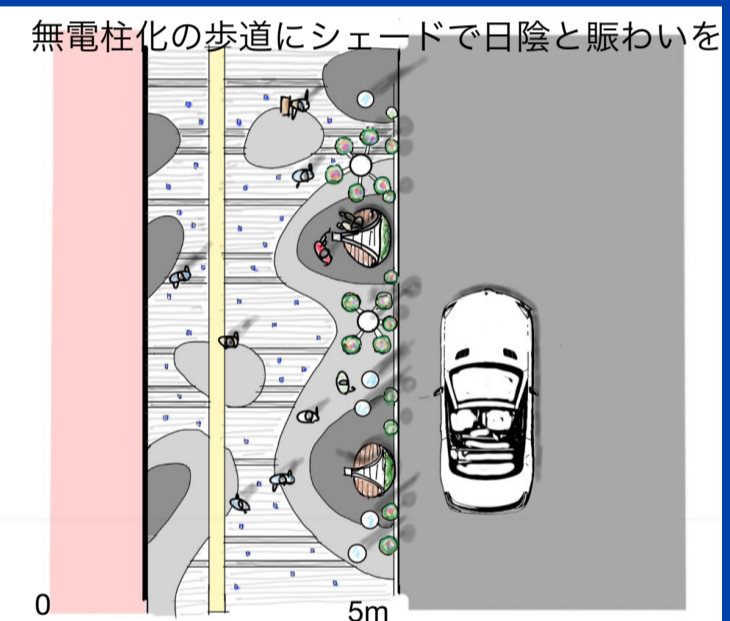
## デジタルスクな風景をイメージスケッチで見る(1)

車両は一方通行、蛇行により滞留空間を確保

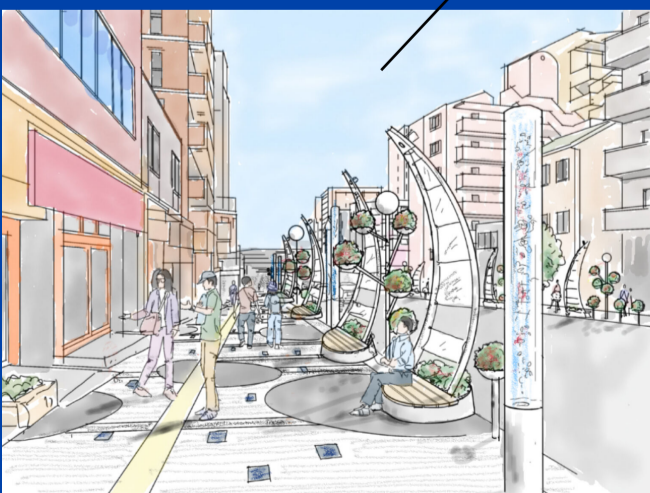


既存樹を保存、新たなデバイスで緑量を増加

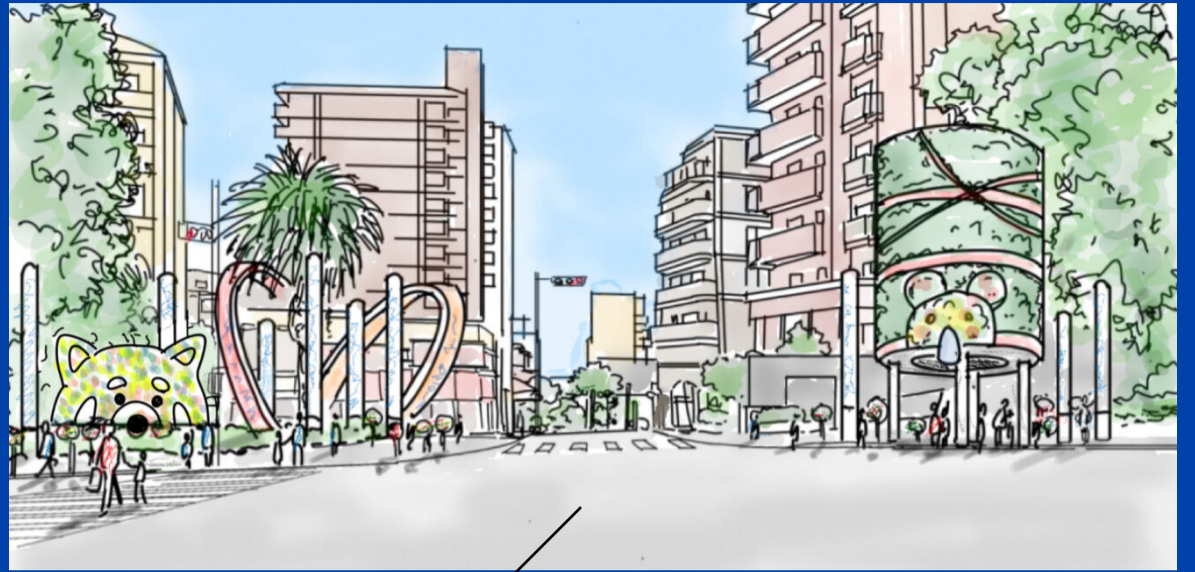
無電柱化の歩道にシェードで日陰と賑わいを



シェードにはベンチを設け滞留空間を創出



シェードから床にスポット照明、キャンバスにはベンチからプロジェクション照明



動物園前はグリーンウォールの一部を花のレッサーパンダやコアラで演出



デバイス配置、スケッチ位置平面図



フラワーポールで色彩豊かな緑に



アーチ部にプロジェクション照明、将来はLED画像

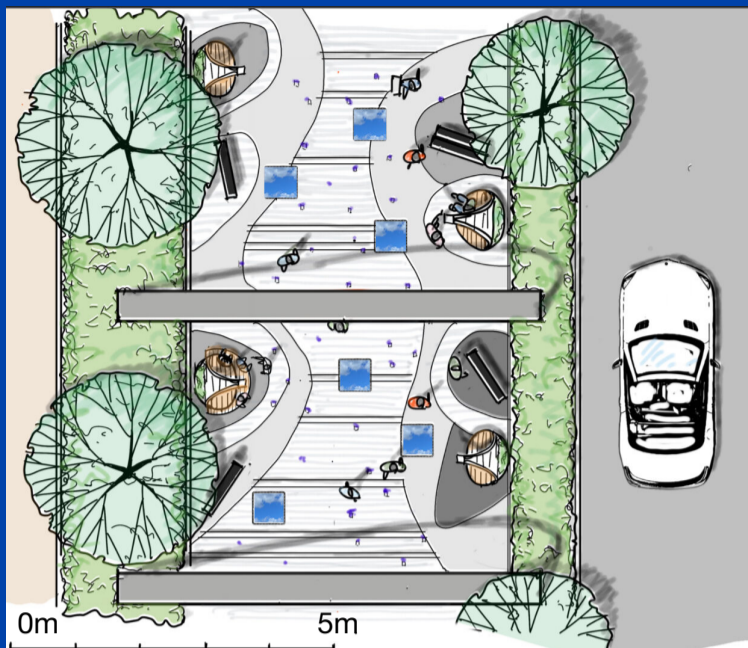


緑のシェードにはベンチの休息空間

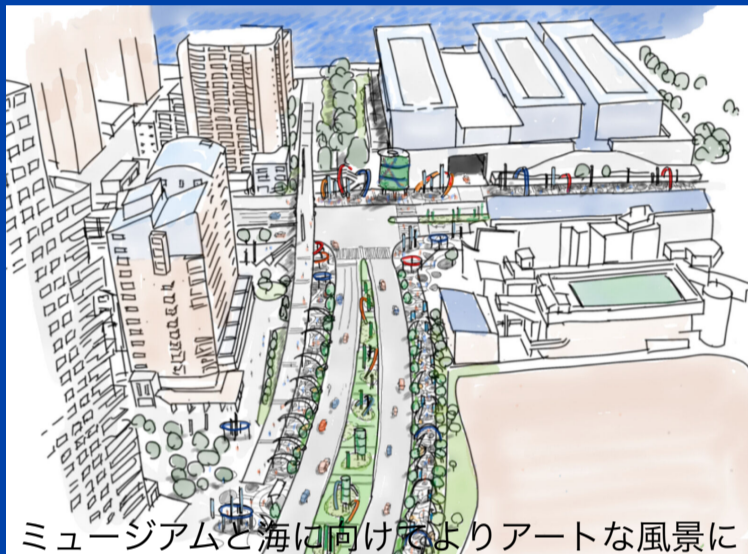


強化ガラス張りの池では、映像の水や空の上を歩くことも可能

## デジタルスクな風景をイメージスケッチで見る(2)

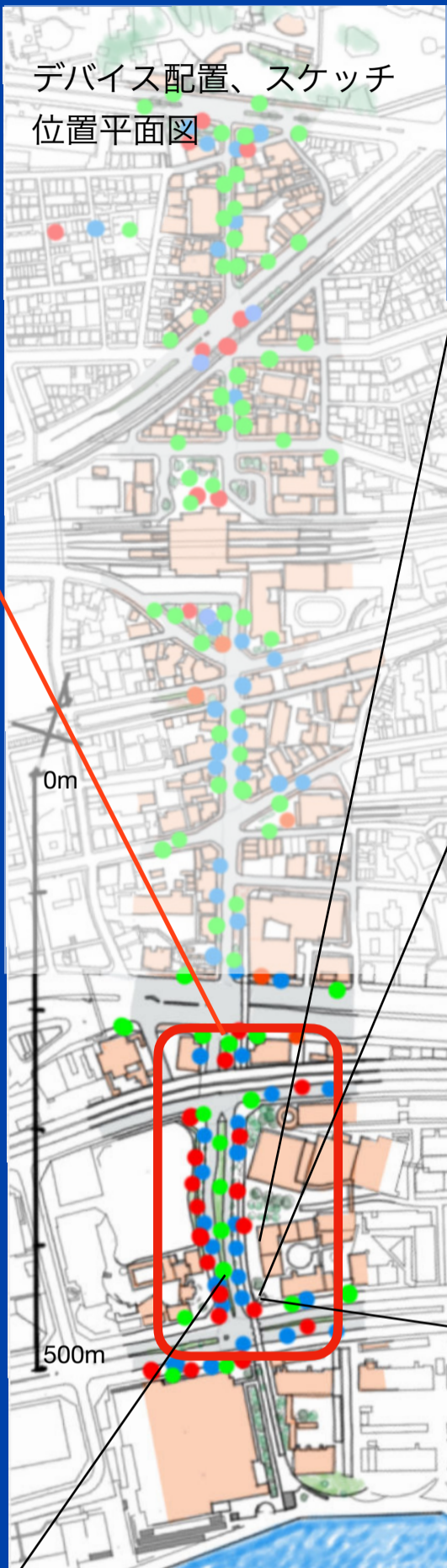


アーチ、モノリス、キャンバスシェードで演出



ミュージアムと海に向けてよりアートな風景にデジタルデバイスではミュージアムの告知、情報、アート等も表示し、ロード全体をアート化。非常時には、内部バッテリー機能で情報発信機能や携帯充電も。これらのデバイスに現在使われている技術は10年先には陳腐化すると思われませんが、その時代には、より新しい洗練されたインタラクティブな技術を安価で導入することが可能となり、さらに普及が加速されます。

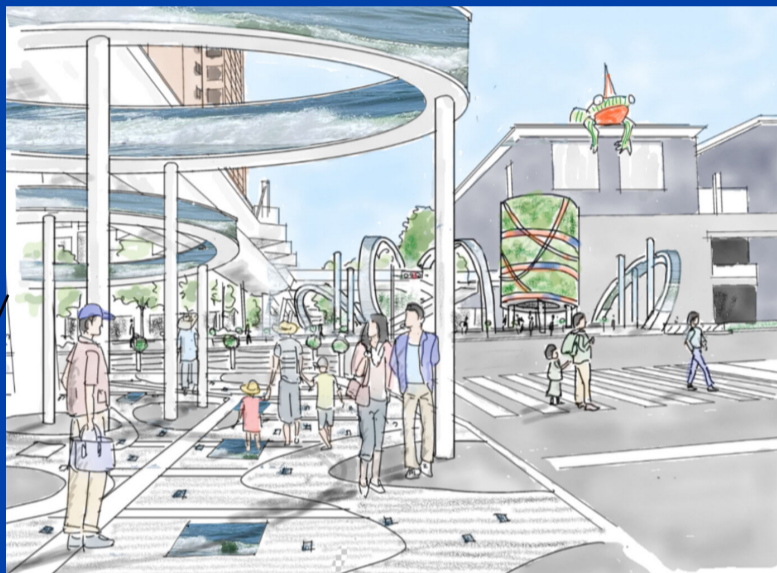
「デジタルスク」な風景は神戸で生まれ、全国、そして海外へ！



デバイス配置、スケッチ位置平面図



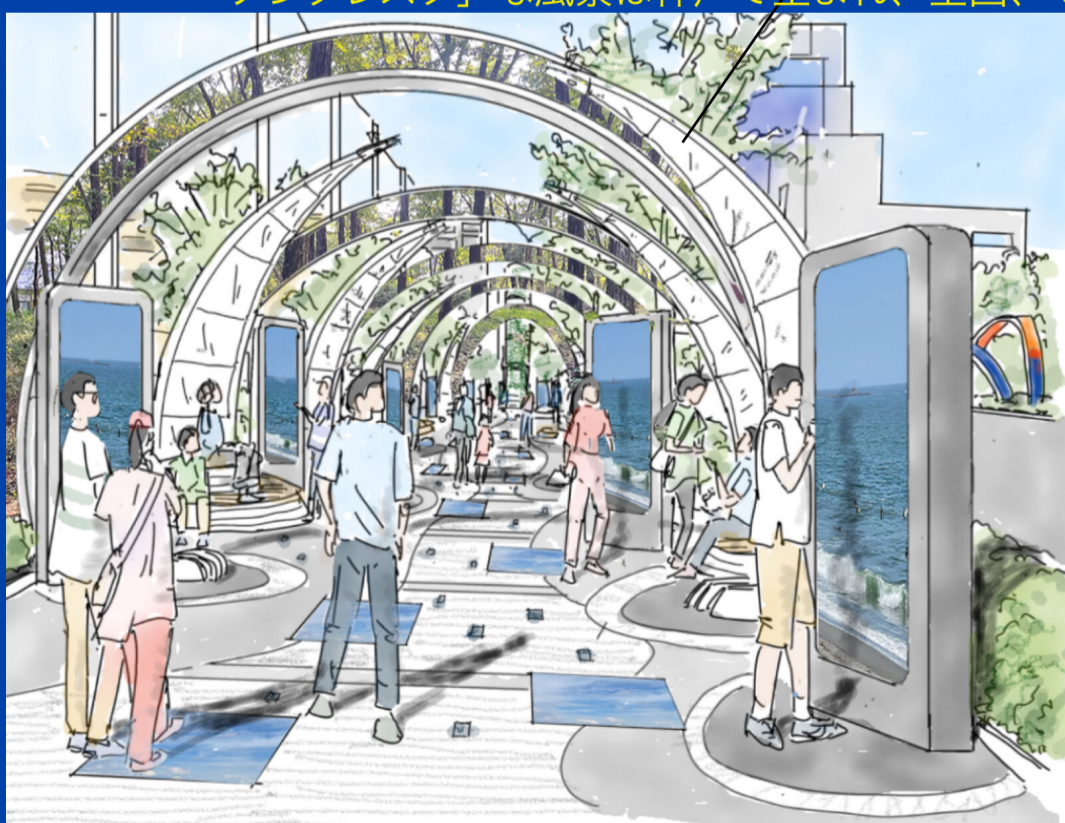
白いキャンバスはヨット、舗装は波をイメージ



頭上や床のデジタルアートでミュージアムへ



緑や水、デジタルデバイス一体のアート空間



デジタル情報の更新は民間に公募、一定時間の広告提示と交換に更新作業を依頼し、絶えず新鮮でアートな情報を提示。ミュージアムのアートや情報のアップによるアートロード化も可能。